

読書を広げる視点を養う

使用教材 『ずうっと、ずっと、大すきだよ』（一下）ほか

「くりかえし」に着目して読む

筑波大学附属小学校教諭 青山 由紀

1 「くりかえし」の特性と効果

低学年の読み物には、「くりかえし」が使われているものが多い。例えば『おむすび ころりん』の「おむすび ころりん すつとんとん」というはやし言葉。『大きな かぶ』の「うんとこしょ、どっこいしょ」という掛け声や会話文、挿絵、場面など。

「くりかえし」という技法には、以下の特性と効果がある。

- ・リズムを生み出す。
- ・登場人物を増やしたり、大きくしたりしながら、徐々に盛り上げ、読み手の期待感を高める。
- ・結末を際立たせる。同じことを繰り返す展開の中で、最後だけ異なることによって、強調することができる。
- ・話の筋を予想しながら読み進めることができる。

「くりかえし」に着目すると、人物の変容をとらえやすい。中心教材である『ずうっと、ずっと、大すきだよ』で「くりかえし」のもつ特性や効果を理解し、それまでに学習した教科書教材を「くりかえし」という観点で振り返り、さらに読書生活へと広げる単元を構想した。

2 単元「くりかえし」のあるお話」

(1) 「くりかえし」の特性と効果を知る
『ずうっと、ずっと、大すきだよ』

学習の終わりに、「くりかえし」出てくる会話文を検討させた。

お話の中にくりかえし出てくる「まとまった言葉（会話文）」の同じところや違うところを見つけよう。

まず、次の三つの会話文であることを確かめる。

- ①「エルフ、ずうっと、大すきだよ。」（p 31・L1）
- ②「ずうっと、大すきだよ。」（p 33・L8）
- ③「ずうっと、ずっと、大すきだよ。」（p 35・L6）

子どもたちの発言を列挙する。

・全部「ぼく」の言葉。
・①②はどちらも、「ぼく」が生きているエルフに言っていた言葉で、③はこれから餓う動物に対して言う言葉。

・③はこれから餓う動物に対してだけじゃなくて、エルフに対しても言ってるんじゃない。

・天国にいるエルフってこと？

・「ぼく」の心の中で、ずうっと生き続けるエルフに言ってる。だから、③だけ「ずっと」という言葉が二つ入ってるんだよ。「大すき」っていう気持ちが一番強い感じがする。

・題名と同じなのは③だよ。③だけが違う。だから、この最後の会話文が一番大事な言葉なんだと思う。

「くりかえし」に着目して違いを検討することによって、一年生なりに読み深め、主題に迫っていることがわかる。さらに、発言は既習教材の「くりかえし」にも広がっていった。

・「くじらぐも」にも「天まで」とどけ、一、「二」、「三」という「くりかえし」の言葉が出てきて、最後の三回目だけが違っていったよ。

そこで、既習教材から「くりかえし」を探すことにした。

(2) 既習教材を「くりかえし」という観点で読み直す

『くじらぐも』『大きな かぶ』『おむすび ころりん』など

「くりかえし」のあるお話を見つけよう。

教科書の上下巻を読み返しながらか、「くりかえし」を見つけた。「ここにもあった」という声が行き交う。

・「くじらぐも」では「くりかえし」の言葉のたびに高く飛べるようになって、『大きな かぶ』では人数が増えていった。やっぱり、どちらも最後だけ違う。雲に乗ることができたり、かぶが抜けたりした。

・『大きな かぶ』の方は、会話文の「くりかえし」だけじゃなくて、挿絵も「くりかえし」になっている。

・抜けなくてだれかを呼んできて、また引つ張るといってお話の筋も「くりかえし」になっている。

ここで、「場面のくりかえし」を教えた。さらに、『おむすび ころりん』の「歌やはやし言葉のくりかえし」を確かめ、さまざまな種類の「くりかえし」があることに気づかせた。『はなのみち』の対比的な挿絵も「くりかえし」として認めた。

(3) 一般図書でも「くりかえし」を意識して読む

「くりかえし」の特性や効果から話の先を予想したり、声に出したりして楽しむことのできる本を読み聞かせした。（ここからは帯単元扱い）

〈使用図書例〉

- ◆『きげんななめのてんとうむし』 エリック・カール （偕成社）
- ◆『エバミナンドス（愛蔵版おはなしのろうそく）』（東京子ども図書館）
- ◆『きよだいな きよだいな』 長谷川摂子 （福音館書店）

(4) 自由読書の中で「くりかえし」のお話を見つける

自分たちで「くりかえし」のある本を探し、見つけた本を読書記録用紙に書き込み、交流させた。

3 おわりに

本実践から、次のことがわかった。

一つ目は、読書を楽しむのに、「くりかえし」に着目した読みが有効であること。「くりかえし」から話の先を予想することで、「やっぱり予想通りだ」「あれっ、予想と違ってきたぞ」などと、本と対話しながら読むことができるからである。

二つ目は、既習教材を新たな観点で読み直すことは、読みの力をつけるのに有効であること。そのために、教科書を丸ごと学習材として扱う価値を実感した。